



正義と平和協議会

Prot. JP-d 14-02
2014年6月27日

法務大臣
谷垣禎一殿

日本カトリック正義と平和協議会「死刑廃止を求める部会」
部会長 ホアン・マシア

抗議声明

私たち日本カトリック正義と平和協議会「死刑廃止を求める部会」は、世界人権宣言とすべての「命の尊厳」を守る宗教者の立場から、2014年6月26日、川崎政則さん(大阪拘置所)の尊い命を国家が奪ったことに、強く抗議します。

私たちはこれまで、死刑の執行停止を繰り返し強く訴えてきました。それは「人間が人間を殺す」死刑とは「新たな殺人」であり、社会に暴力的メッセージを発するものであり、死刑という制度を利用した犯罪に他ならないからです。しかも犯罪の抑止にもつながっていません。また、死刑執行による取り返しがつかない最大の悲劇は、無実の死刑囚が処刑されることです。そして、死刑囚の悔悛の機会を奪い、私たちの社会に、罪を犯した人の悔い改めと再生への道を助けていく責任を放棄させ、彼らと共に生きる成熟した人間らしい社会を奪うものです。私たちはこのような死刑制度を未来ある子どもたちに残してはいけないと強く感じています。

聖書には、罪人が十字架上でイエス・キリストに赦しを求める場面があります。人は死にいたる直前まで、神に赦しを求めることの大切さが示されています。それは犯罪者が本当に罪を悔い改め、神の赦しを得ることによって、人間らしい死を迎えるためです。既に述べた通り、国家が加害者を殺してしまえば加害者と同じことをすることになります。そのことを認めてしまえば、私たちは若者に命の尊さを教えられなくなり、彼らの内に復讐の精神を育ててしまうことになるのです。

私たちは、日本政府が、ただちに死刑執行を停止し、死刑廃止に向かっている世界の潮流を国民に広く知らせ、死刑存廃を考える省内勉強会を復活させ、死刑について、真に開かれた国民的議論が一刻も早く開始されることを願って止みません。